



学校再開と感染防止策

市内小・中学校などでは、文部科学省の「学校の新しい生活様式」により、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いなどの感染対策を徹底するといった対策を行っています。今回、取材を行った高須小学校では、安全な学校生活のため、さまざまな工夫を凝らしています。



教室



全教室、窓を開けしっかりと換気をし、各学級には消毒液を設置しています。また、子どもたちは全員マスクを着用。2列の配置にしていた机も1列の配置に変更し、子ども同士の距離が保たれるようにしています。



給食



給食の時間はみんなマスクを外すため、授業時よりも更に気を配っています。教員も給食衣を着用して清潔を保つようにし、また、配膳の際にはこれまで通り各自が並んで1人ずつ給食を取りますが、グループごとに列に並びようにして、混雑を回避するようにしています。また、3年生以上はクラスから10人程度ずつ、音楽教室など別の教室に移動し、分散して食事をするよう工夫しています。みんな無言で静かに食事しています。



授業

授業では、密集を避けるためグループでの話し合いなどは行っていませんが、先生からの質問があったときには、積極的に手を挙げて発言しています。



廊下

トイレ

廊下やトイレの前には、ソーシャルディスタンスの目安となるよう、足形印をつけています。



この印は、給食の配膳の時や、ノートを見てもらう時など、様々な場面でソーシャルディスタンスを保つために使われています。



体育

体育の授業でも、ソーシャルディスタンス。距離を保ちながら運動できる種目として、リレーのバトン渡しの練習です。みんなが使うバトンは、1時間ずつ消毒します。



休憩

大休憩や昼休憩は、これまでと変わらず元気に遊ぶ子どもたちの様子が。担任の先生も一緒になって、鬼ごっこやサッカーなど、それぞれの遊びを思いっきり楽しんでます。



消毒作業



子どもたちが下校した後、先生たちの消毒作業が始まります。教室の机や椅子、廊下の手すりなど、体が触れる所は消毒液で拭き取ります。また、トイレ掃除は感染の可能性があるので、放課後に先生たちが掃除をしています。



高須小学校 梶原弘志 校長先生から

教職員一同、緊張感を持ち感染対策を行っています。

新しい生活様式を取り入れながら3密を避け、子どもたちの教育に取り組んでいます。色々な制約はありますが、学校が再開できることになり、素直で明るい子どもたちと日々学校生活を送ることができることに喜びを感じています。コロナ対策はこれまでに誰も経験がなく教職員にとっても手探りではありますが、第2波や感染拡大に対して、緊張感を持って毎日を過ごしています。やりながら気づくこともあります。その都度課題を出しながら、教職員全体で方法を探り改善して行っています。